

前回の静岡県河川審議会での主な委員意見について

No.	委員意見	分類
①	仁科川における電気柵の事故については、直接的には河川管理に関係するものではないが、伊豆地域の山地部や里山において鳥獣被害が増加している状況や、それに起因する流域への影響については、流域の特徴として書き留めておいてほしい。	治水
②	3 河川とも、大雨が降ったときに土砂が流出する可能性が高いということは、森林の地形、地質などと関係が深いのでは。 水源涵養林とか、あと土砂抑制の機能を持つ保安林が指定されている状況を、流域の特徴として記載してはどうか。	治水
③	豪雨時に、碎石場から土砂が出たというわけではなく、溪岸浸食や崩壊地から土砂や流木が流出し埋塞による氾濫が発生したと考えればよいか。 災害発生と碎石場閉鎖後の後処理の因果関係を、整理しておいたほうがいい。	治水
④	津波対策における地区協議会の開催状況説明から、地域によってはソフト対策といっても人口減少と高齢化が進む中で、避難をすることも困難であるという状況があることを実感した。 ハード対策・ソフト対策を組み合わせた津波対策が難しい地域もあるのであれば、高齢化にあわせていずれ子や孫やその次の世代の方々には少しリスクを離れたところに住んでいただくなど、土地利用の観点から対策を考えることも必要になってくると感じた。	治水
⑤	近年、川に対する人々の意識や利用に関する関係性が低下し、仁科川流域に残る「百八灯」いった河川文化などが、風化しているように感じる。 こういうものの存在をしっかり認識し、保護に向けてできることがあれば、関係機関や地域に働きかけるなど、若い世代に引き継がれるような本文の記述にしていきたい。	利用 利水
⑥	高齢化が進む西伊豆地域の生き残り、活性化のためには、地域の歴史や文化を見つめなおすことが大切であり、川・海・山の文化がある西伊豆町の特徴を踏まえ、地域の活性化に寄与する河川整備が必要である。	利用 利水
⑦	自然の豊かさ、多様性を保つためには、河道の連続性を確保することが重要である。 土砂移動が激しい河川では固定堰の設置により下流側の洗掘が懸念されるため、可動堰のほうが有効な場合もある。	環境
⑧	3 河川とも、そもそもの集落の名前がついた川、村落の成り立ちに関わりの深い川であり、今後地域住民の方が地元の川により一層関心を持っていただけるよう、本文に記載していただけるとありがたい	その他
⑨	基本方針への記載においては、その川の個性がしっかり書かれていて、それが流域の一部になっているということを認識できるような記述になるのがいい。	その他